

新刊紹介

石炭	二七、五五	三、四二	二、八四七	一八、五五三	一〇、一〇〇
褐炭			三六、九〇	二、八八八	三、三〇〇
印度支那	六、二二	八九、八二〇	九七、四五六	一一九、七〇〇	
オランダ	五、二八	五七〇、七二七	六七五、四〇五	六六三、二一〇	
オランダ領	二八、七三	二二、六四四	九七、一五九	一一、四三三	
東印度諸島	四四、三三	三、七五、一〇〇	三九、一六〇	二、三、七六	
ポーランド	六、一〇、三	六七〇、九七四	六六、七〇七	八〇三、一三七	五、一、三三
スペイン	五、二六、五九	七六、一、八六〇	九〇、一、九四五	八八〇、六六	八、八、四六三
米 國	三、四、七五	二、〇三三	二、三九	二、二九七	
ベネズエラ	四、五、四六	五、四三、三六四	五、九、六九	五、八、五四、一六一	
合 計	四、五、四六	五、四三、三六四	五、九、六九	五、八、五四、一六一	

右に依れば一九二八年の世界煉炭總生産額は概略約五、二〇〇萬噸にして内獨逸の生産額は約八七％に當り佛國、自耳義之に次ぎスペイン、オランダ、米國は略相等し

煉炭工業は利用し得る石炭の大部が劣質炭にして原炭の儘の使用に適せざる國々に於て最も發達せることを認め得べし、獨逸に於て獨逸褐炭煉炭の生産額は過去五年間に於て約三六・六％増加せり、一九二八年に於ける獨逸褐炭の産額は一六六、二二四、一五九噸にして内七九、五〇〇、〇〇〇噸煉炭用に供せられ褐炭煉炭の生産額は四〇、一五八、四七八噸なり (Fuel

triquets in 1928, Mineral Resources of the United States, 1928

Part II, 10-11)

(石 橋)

新刊紹介

九二

Gesammelte Abhandlungen zur Kenntnis der Kohle, Bd. 8

Franz Fischer. Berlin 1929. Geb. Borntäger, 790 s.

R.M. 74

本書は同叢書の第八卷として出版され Mülheim の Kaiser-Wilhelm-Institute に於ける一九二四年より一九二七年に至る迄の石炭に關する研究の大部分を收録したものである。石炭の組成、成分、石炭の各種處理生成物及石炭自身の物理的並に化學的變化等に關する從來の基本的實驗を更に追加延長したものである、又合成に關する研究に於ては瓦斯の清淨法、ベンゼン類の合成、内燃機關用シントールの研究及メタンの分解等をも詳述してゐる。此外一九二二年より一九二三年に至る研究中前卷に未收録のもの約四三項が追補せられた (諏 訪)

Schnellaufende Dieselmotoren.

O. Föppl, H. Strombeck, L. Ebermann. Berlin 1929,

Julius Springer. 237 s. R.M. 16, 5.

歐洲特に獨逸に於ける高速ディーゼル機關は文字通り日進月歩の勢を以て發達しつゝある故に纏まつた一冊の便覽書の如きに依て最新の趨勢を巨細洩さず紹介する事は寧ろ不可能の事に屬する此故に本書に述ぶるところは専ら基本的或は比較的初歩時代の高速ディーゼル機關及U式ボート發電機の類に限られてゐる事も亦止むを得ない次第であらう。高速ディーゼル機關の必要は歐洲大戰に依て益々強調され獨逸國內の著名ディーゼル機關工場は擧つて此方面の研究に没頭し今や實用の域に迄發達を遂げ各種の高連輕量機關が或は自動車として或は發電機用として今後陸續として市場に